

## 認知症患者へのマッサージ施術の効果

7月15日の医療福祉事例検討会で提示された困難事例は、認知症の方で介護抵抗や易怒性、多動、攻撃的言動などに周囲が困っている内容でした。

重度の認知症患者に対してのマッサージ効果を検討する研究がありましたので紹介させていただきます。

参照論文：「Physical and Psychological Effect of 6-Week Tactile Massage on Elderly Patients With Severe Dementia」  
American Journal of Alzheimer's Disease & Other Dementias 25(8) 680-686 . 2010

この論文の中では、優しく触れるようなマッサージを認知症患者へ行うことにより、対象の患者の攻撃性やストレス、BPSD に対して効果があることが書いてありました。研究結果の詳細としては、夜間の不安定な精神状態の減少や Behave-AD のスコア減少、GBS の縮小も確認でき、BPSD にも変化があることで、看護師の負担が軽減すると報告しています。(私の体験でも、担当していた患者様が興奮していた時に手を握ったところ、少しずつ落ち着いてこられたという経験がありました。)

考察の中でも、意思の疎通が難しい患者と相互の信頼を深くするために、マッサージは効果的と書かれていました。私たちが行っているマッサージは、血流を良くしたり、浮腫を軽減させたり、痛みを和らげる効果があるとされておりますが、それと共に、手を当てながらコミュニケーションをとることで、精神的にも落ち着き、意思の疎通がはかれることを改めて考えさせられ、力を入れて押すだけでなく、優しく触れる良さや方法もあることを学びました。(成島)



## マッサージ師ってどんな仕事？

「マッサージ師」の正式名称は「あん摩マッサージ指圧師」といいます。この国家資格は、指定養成校(3年)で学び、国家試験に合格して取得します。

「あん摩」「マッサージ」「指圧」と異なる3つの技術が資格名に含まれており、日本社会に導入された歴史の順に資格名として記されています。

今回は「指圧」についてご紹介いたします。

### その③「指圧」

指圧とは、親指や手のひら等を用いて、遠心性(体幹から手足の方向)に、垂直に押圧して身体を整え、健康の維持増進と疾病治癒をはかる施術です。

古来のあん摩、導引、柔道の活法と、アメリカの手技療法が混ざって、大正初期に広まりました。

「指圧」の生みの親である「浪越徳治郎」氏は、マリリン・モンローやモハメド・アリなど、多くの著名人を治療し、世界に指圧(SHIATSU)を普及させました。(のんき)

## マッサージ師として熊本地震を考える④

当会の沼尻良夫先生(リウト鍼灸治療院)の熊本地震施術ボランティア第3弾です。

持病が悪化した73歳女性の症例をご紹介します。この方は、圧迫骨折の既往があり、背部痛を訴え、腰が曲がっていました。施術後は痛みが消失しただけでなく、長年できなかった上を向いて寝ることができるようになりました。そのため、睡眠の質が上がったようで、非常に喜ばれたそうです。

他にも、特に自覚症状のない方が、“試しに施術を受けてみた”ところ、施術前後の体調の違いから、自身が疲れていたことに気付いた例もあったそうです。自覚やバイタル等に表れていなくても、心身の負担に気づける機会があったことは、大切なことだと思います。

災害時の避難所支援の1つとして、鍼灸マッサージ施術の活用をもっと検討して頂きたいです。(草の根)

最後までお読み頂いてありがとうございます。

当会や在宅医療マッサージについて、ご興味・ご関心をお持ち頂きましたら幸いです。

## 訪問医療マッサージを考える会つば

つば市内での在宅における訪問医療マッサージの現状を少しでも改善させ、利用者やその家族に喜ばれるよう、市内のマッサージ師(鍼灸師も含む)有志で、2015年に結成しました。  
(2016年8月現在、マッサージ師8名、鍼灸師9名所属)

事務局:こぼり治療院(つば市横町368-5)  
029-869-9979  
info@kobori-chiryoin.com